洞第２古墳群

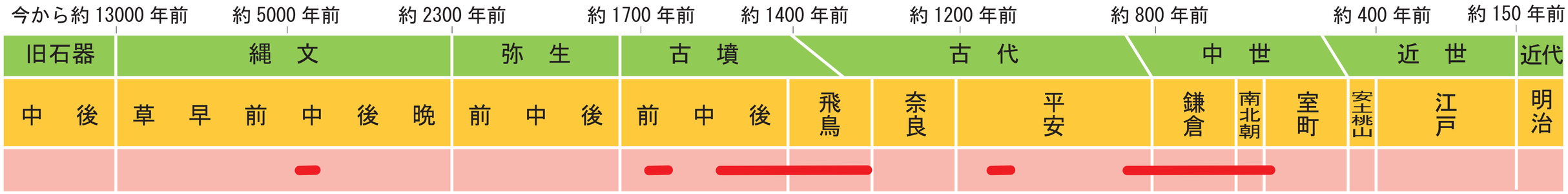
岐阜市洞

発掘区遠景

洞第２古墳群は、岐阜市北西部に位置する御望山（標高 225.3m）の東側南麓に立地しています。調査では、周知の古墳の周溝のほかに、古墳時代中期の古墳１基、古墳時代後期の古墳８基を新たに確認しました。また縄文時代早期、古墳時代前期、古代、中世の遺構も確認しました。

洞北山４号古墳全景

写真は、洞北山４号古墳です。南北約 13m、東西約 11mの円墳で、埋葬施設である横穴式石室（長さ８m）から、土器類・鉄刀・鉄鏃・刀子・刀装具が出土しました。石室内には小石槨が設けられおり、追葬が行われていたこともわかりました。

提砥と刀子の出土状況

写真は、洞北山５号古墳の埋納遺構から提砥と刀子（柄の部分が鹿角装）が出土した状況です。５号古墳は不整形な方墳で木棺直葬の埋葬施設をもち、古墳時代中期の古墳と推測されます。また、提砥は県内では出土事例の少ない珍しいものです。